

- 平成 24 年 10 月 1 日 第 265 海兵中型ヘリ中隊 (CH-46 12 機) に代わり第 265 海兵中型ティルトローター中隊 (MV-22 12 機) を配備
- 平成 25 年 4 月 5 日 日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の 2022 年度もしくはその後の返還が発表された
- 平成 25 年 5 月 30 日 米軍が航空部隊配置計画 (UDP) 再開を発表。(2013 年 6 月初旬から CH-53E 4 機、AH-1Z 4 機、海兵隊 170 名の 6 か月毎のローテーション配置が再開)
- 平成 25 年 8 月 3 日 第 262 海兵中型ヘリ中隊 (CH-46 12 機) に代わり第 262 海兵中型ティルトローター中隊 (MV-22 12 機) を配備

## 4. 使用目的及び使用条件 (5.15 メモ)

使用目的：飛行場

使用条件：施設の使用条件及び使用期間については、特に定められていない。

その他：本施設及び区域内の指定された出入路は、合衆国軍の活動を妨げないことを条件に、地元民の通行が認められることが合意されている。

## 5. 施設の現状及び任務

宜野湾市の中心部に位置するこの施設は、第 3 海兵遠征軍の第 1 海兵航空団隷下第 36 海兵隊航空群のホームベースとして、ヘリ部隊を中心として 63 機の航空機が配備され在日米軍基地でも岩国と並ぶ有数の航空隊基地となっている。施設内には滑走路 (長さ約 2,800m×幅 46m)、格納庫、通信施設、整備・修理施設、部品倉庫、部隊事務所、消防署があるほか、PX、クラブ、バー、診療所等の福利厚生施設等の設備があって、航空部隊として総合的に設備されている。

第 36 海兵航空群は、この施設に各中隊を配備し、上陸作戦支援対地攻撃、偵察、空輸などの任務にあたる航空部隊として同基地で離着陸訓練を頻繁に行っており、また、北部訓練場、キャンプシュワブ、キャンプハンセン等の訓練場では空陸一体となった訓練も行っている。

また、昭和 53 年 1 月、キャンプ瑞慶覧のハンビー飛行場の返還に伴い、東側に格納庫、駐機場、その他付帯施設の代替施設が建設され、昭和 56 年 9 月のヘリ中隊の変更配備、平成 4 年の再編、さらに平成 16 年からはじまったイラク戦争への派遣、平成 24 年に行われた CH-46 から MV-22 オスプレイへの換装、平成 25 年に発表された航空部隊配置計画 (UDP) の再開を経て、現在に至っている。

## 6. 周辺への影響

普天間飛行場は宜野湾市の中央部に位置し、しかも本市の全面積の約 25% を占め、施設周辺は住民地域となっているため、航空機騒音、墜落事故の危険性、環境への影響、道路交通網の遮断による経済的損失、都市開発等地域振興上の障害等の問題がある。

### ●墜落の危険性

普天間飛行場所属の航空機による事件・事故発生回数：97 件 (本土復帰～H25.11 月末)

普天間飛行場所属機による事件事故だけでも、年間平均で 2.2 回を超える頻度で発生し、平成 25 年は 11 月末の時点で、2 件のハードランディング (1 件はその炎上) を含めすでに 4 件も発生しております。